



東北電友会会報

第74号

3.11 東日本大震災特集号

平成26年1月発行



忘れない 忘れてはいけない

松島湾に昇る朝日

目次

本部長あいさつ	3	復興に向けた取り組み	
会員寄稿文	6	NTT東日本 東北復興推進室	77
		NTTドコモ 東北支社	83
		地方本部だより	87

発行 電友会東北地方本部

電友会東北

検索

URL <http://www2.ocn.ne.jp/~tohkuob5/>

東日本大震災・各地の主な被害状況

被災者数

(平成23年4月11日午後7時時点)

死者

1万3130人

行方不明者

1万3718人

避難状況

14万5565人

数字で見る大震災

地震の規模

マグニチュード(M)

9.0

国内観測史上最大

津波の高さ【遡上高】

最大

37.9m

岩手県宮古市
(東大地震研究所調査)

明治三陸地震では最大38.2m
岩手県大船渡市

直接損害

総額

16兆~25兆円

阪神大震災は9.9兆円

浸水面積

507km²

国土地理院による
(茨城、千葉は調査継続中)

JR山手線内側の8倍

農地被害

総額

2万3600ha

東京ドーム5050個分

国家石油備蓄基地が大破

久慈市

野田村 37人 0人

田野畑村 14人 25人

宮古市田老地区で津波の高さ37.9m(遡上高)

宮古市 399人 682人

山田町 533人 378人

町長が津波で死亡

大槌町 597人 1006人

釜石市 708人 602人

津波の高さ23.6m(遡上高)

大船渡市 288人 208人

陸前高田市 1241人 1179人

津波で大規模火災

気仙沼市 711人 1416人

防災対策庁舎が津波にのまれる

南三陸町 441人 632人

石巻市 2669人 2770人

女川町 394人 873人

東松島市 913人 調査中

七ヶ浜町 60人 15人

多賀城市 179人 11人

仙台市 531人 調査中

名取市 863人 1000人

岩沼市 166人 15人

亘理町 244人 45人

山元町 610人 194人

新地町 86人 34人

相馬市 404人 不明

南相馬市 417人 1057人

浪江町 3人 183人

埼玉県加須市に役場機能移転

双葉町 14人 16人

いわき市 290人 82人

4月11日午後9時時点、共同通信まとめ。

市町村別死者・行方不明者数は11日午後8時までの各県まとめ。

都道県別死者・行方不明者・避難者数は11日午後7時時点、警察庁まとめ。

避難者数は県内にいる人数で、岩手、宮城、福島県以外は省略。

死者 行方不明者

東日本大震災から三年



平成23年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の巨大地震が発生し、大津波が太平洋沿岸を襲いました。さらには東電福島第一原発事故が重なり、危機的状況となりました。

この大震災による死者・行方不明者は2万3千人を超え、東北の電友会の会員だけでも29名の方が亡くなられ、会員の家屋の全壊・流失は214件にも及びました。いまだ仮設住宅で過ごされている方もおり、その爪あとの大きさに改めて大自然の猛威を感じます。

あれから三年経とうとしています。東北の電友会では、全国の電友会の皆様から寄せられた心温まるお見舞いに対して、感謝の気持ちでいっぱいです。

前会長の梅さんが被災した会員の仮設住宅を訪ね、皆様からのお見舞い金をお届けした時に「お父さんはなんていい会社に勤めたのでしょうか。OBになってからも全国からこうして手を差し伸べていただくなんて」という言葉も頂きました。

私ども東北の電友会は、全国の会員の皆様にこの感謝の気持ちをどのような形でお返しをすればよいのか、そのすべを持ち合わせていませんが、これから想定されている東海・東南海地震やその他の大規模地震に対して、どのように備えればよいのか、具体的な体験談をお伝えし、あの震災を風化させないことが全国の電友会の皆様へのせめてもの御礼かと思い、特集号としました。



「忘れないうで」の碑／平成24年3月 NTT五橋ビル中庭に建立

平成26年1月
NTT全国OB会 電友会東北地方本部
本部長 **小野寺 昭夫**

岩手支部

23	あの日思ったこと	遠野地区電友会 中屋敷 仁
22	あの日のことを振り返って	遠野地区電友会 田代 明子
21	あの時私は	遠野地区電友会 菊池 貞子
21	あの時私は	遠野地区電友会 及川 裕允
20	3・11あの日あの時	遠野地区電友会 赤坂 トヨ
19	あの日から	おおふなと電友会 村上 ミキ子
18	大津波に遭って九死に一生	おおふなと電友会 及川 彌
17	3・11あの日あの時	おおふなと電友会 及川 直
16	全国・全世界からの支援に感謝	おおふなと電友会 岩城 恭治
15	神様に守られて	おおふなと電友会 安城 恵美子
14	3・11あの時 私は…	前川 正博
13	大津波	釜石地区電友会 佐藤 恵蔵
12	平穏な日常を奪ったあの日	釜石地区電友会 久保 紀子
11	私の3・11	釜石地区電友会 及川 幹
10	虫の知らせ	宮古地区電友会 八木 良子
9	災害に思う	宮古地区電友会 細越 進
7	3・11その後の私は…	宮古地区電友会 中済 寿美子
6	あれから2年7ヶ月	宮古地区電友会 城内 冨美子

宮城支部

40	東日本大震災の経験語る あの日あの時私は	五ッ橋クラブ 平山 典明
39	魂に刻む震災の悲劇	五ッ橋クラブ 小坂 仁
38	復興にかける祈りの気持ち	五ッ橋クラブ 奥 京子
37	「3・11」を忘れないで	五ッ橋クラブ 大友 健弘
37	震災時をふりかえって	五ッ橋クラブ 天野 哲雄
36	予知できず突然襲ってくる地震 恐ろしい体験を風化させず後世へ	石巻電友会 山田 千秋
35	私の東日本大震災記録	石巻電友会 伊藤 誠七
34	あの時、そして	石巻電友会 伊勢 栄
32	東日本大震災を体験して	石巻電友会 石森 八重子
32	東日本大震災を経て	石巻電友会 大宮 敏彦
31	あの時を顧みて	気仙沼クラブ 佐藤 敏子
30	震災を被けて思った事	気仙沼クラブ 佐藤 京子
29	プールからの避難	気仙沼クラブ 佐々木 洋一
28	負けてられねえ	気仙沼クラブ 斎藤 隆
27	私の東日本大震災	気仙沼クラブ 熊谷 省二
25	私の大震災の記憶	北上電友会 雑賀 教子
24	3・11大震災を体験して	水沢地区電友会の会 菊池 元
23	ガソリンと灯油が 手に入りませんでした	盛岡電友会 根本 泰秀

41 その時私は！私の家族は！

五ツ橋クラブ
笹原 弘

42 東日本大震災で親友夫妻を亡くす

五ツ橋クラブ
若松 芳陽

44 自宅の被災状況と復興支援

仙南O日会
千葉 定一

45 震災帰宅に5時間半

大崎クラブ
我妻 政信

福島支部

46 ふれあい

福島地区電友会
伊藤 鉄次

47 3泊4日の大震災

福島地区電友会
加藤 良栄

48 3・11震災を振り返る

福島地区電友会
菅野 達司

49 混乱時にはリーダーが必要

福島地区電友会
斎藤 英男

49 忘れることの出来ない
東日本大震災の大惨事

福島地区電友会
六戸 直司

50 日本政府と東京電力の功罪を問う！

福島地区電友会
仁後 康

52 その時私は

福島地区電友会
山口 照代

53 地震・雷・火事・おやし

電友百委員会
伊藤 邦子

54 東日本大震災の思い出

電電原町退職者の会
岡本 清義

55 仲間の絆に感謝

電電原町退職者の会
半谷 敬一

56 あの時わたしは…

電電相馬クラブ
草野 拓也

57 ほんとうの空が還る日

電友あさか会
大沼 正典

58 千年に一度の地震に遭遇するとは!!

電友あさか会
今野 浩

59 私の3・11

白河地区電友会
関戸 忠義

60 震災時の経験

いわき電友会
古市 三久

61 避難所で共に過ごして

いわき電友会
若松 隆

63 東日本大震災に思う

会津電友会
岩橋 克子

青森支部

64 みんな無事で良かった

八戸地区電友会
松倉 昌之

65 東日本大震災からの復興を祈る

青森地区電友会
館山 生木

65 あの時私は

十和田地区電友会
高坂 義雄

山形支部

67 NTT・IOBの力強い行動力

霞城クラブ
江場 和男

67 絆を大切に生きていきたいと思ひます
(あの日は忘れない3・11)がんばろう！とうほく

電友会さくらんぼ
阿部 孝記

70 東日本大震災に思う

村山クラブ
津田 博

70 合唱ボランティアに参加して

酒田電友会
森谷 隆子

71 なせば成る

電友会おいたま
影澤 政夫

秋田支部

72 東日本大震災に思う

千秋クラブ
辰 正祥

73 東日本大震災をふり返って

秋田県北地区電友会
大川 哲男

74 経験を活かし地震に備える

秋田県南地区電友会
最上 敏夫

地方本部の取り組み(記録)

東北地方本部事務局

あの日・あの時、私たちは五橋第二ビルの事務局で4月発行予定の「東北電友会会報」編集業務に当たっていました。大激震がおさまりに中庭に出た後、指定避難場所である五橋公園にNTT社員と共に避難しました。業務継続が不可能なため散乱したままの事務室に施設し、雲の降る中を徒歩で帰宅しました。

停電で電話もインターネットも不通のためビルへの入館ができない状態が一週間続き、業務を再開できたのは18日で、まず散乱した事務局内を片付けました。17日には本部青木会長からお見舞いのメッセージが届いていました。入館不能期間中は勿論、それ以降も暫くは、自宅も電気、ガス、水道が使用できず食料品確保等に奔走する状態が続きました。17日までは本部や会員からの携帯電話への着信には応答し、状況の説明はできましたが事務局業務はできませんでした。

以下時系列的に取組み内容を記します。

★会員の安否確認と被災状況の把握

事務局での実質業務開始は22日で会員の安否、被災状況を確認する内容を往復ハガキに

印刷し、仙台圏の会員1600名に発送、職域幹事にはメールで把握を依頼しました。3月31日には60%、4月25日には90%の被災状況把握ができました。

22日以降各県支部と宮城県内の連絡のつく地区に対しても安否確認、被災状況の把握をお願いしました。被災地区では地区会長を先頭に役員が手分けして、徒歩・自転車でも会員宅、避難場所を訪問するなど自主的に取組みを進めていました。

被災地区の状況をヒヤリングし続け、3月26日時点で各県支部、本部等へ取急ぎ報告するためまとめました。宮古、大船渡の両地区とは電話もインターネットも使えず把握できない状況でした。

携帯電話の復旧は比較的早いので、地区三役の携帯電話番号を地方本部でも把握しておく必要性を痛感しました。

被災状況の把握において、区分は①会員本人死亡②配偶者死亡③本人重傷④本人中傷⑤家屋全壊・流失・大規模半壊⑥家屋半壊・床上浸水としました。被災区分認定の最終判断は地区会長に委ね4月下旬には地区別被災状況の概ねを把握することができました。

★お見舞金お願いの取組み

東北は被災地ですが、軽微な被災の会員も

いることから、支部を通じて「お見舞金のお願い」を发出しました。当然ながらすでに被災の連絡が届いている会員には発送しませんでした。

★本部等からお見舞金の贈呈を受ける

4月下旬には、本部と関東電友会から当座のお見舞金として送金を受けました。

★家屋全壊会員に暫定的贈呈(5月2日)

当座のお見舞いとして本部等からのお見舞金をまずは、「家屋全壊・流失」等最も困窮していると思われる会員に対し贈呈しました。

★東北地方評議員会の開催(5月10日)

大震災で犠牲となられた会員のご冥福を祈り黙とうを捧げました。

本部から青木会長、関東電友会から桑原会長が出席され激励とお見舞金を頂戴しました。NTT東日本からは南川宮城支店長が出席され、NTT設備の被災状況と復旧模様についてお話しされました。

沿岸部の2地区は仙台までの交通手段が無いため、この時点では出席できない状況でした。

★被災状況確定の照会(7月20日)

全国からいただいた「お見舞金」を可能な限り被災した方々へお渡しできるよう当該地区に最終確認を行い、被災状況を確認しました。

★お見舞金贈呈の考え方の作成と

被災別贈呈額の決定

国、自治体等の配賦基準を参考に電友会としての方針をまとめ、支部長・事務局局長会議に諮り以下のとおり決定しました。

被災ごとにウエイトを決め、全被災のウエイトの合計に応じて

- ①人的被害と家屋被害のダブル贈呈は行わない。また、複数の事象に該当する場合はウエイトの高い方を適用する。
- ②全壊を10とした場合、自治体の考え方に倣い半壊は5とする。
- ③本人死亡は5、配偶者死亡は3とする。(他にNTT並びに電友会では地区によって弔慰金があるため)
- ④重傷者は4、中傷者は2とする。
- ⑤単身赴任で留守宅を損壊した場合は対象とする。
- ⑥夫婦とも会員の場合、被災家屋1軒は1件とし、複数地区に加入している場合はどちらか一方で贈呈する。

★お見舞金の贈呈(7月28日)

地区別に郵送費等事務経費も含め算出し、「電友会会員有志一同」からの手紙も同封し送金しました。

被災会員の氏名を被災状況別に次回発行の

会報に掲載することとし贈呈完了報告を受けました。贈呈を受けた会員からは多数のお礼状等が届きました。

★全国事務局局長会議で「安全・安心」を議論
(12月5日～6日)

被災地でもある松島で開催しました。NTT東日本南川東北復興推進室長・宮城支店長から現段階における復旧状況等について講演をいただきました。続いて沿岸部の被災地区役員から、会員の安否確認・被災状況把握方法等について発表してもらい質疑応答を行いました。翌日は「体育館に避難したのに津波に遭遇した野蒜小学校」で犠牲者に献花。また、津波にのまれたNTT野蒜交換所や電柱も無い道路に丸太を組合せたものを蛇腹管に収容してケーブルを乗せたり、棚に仮釣りした通信線路が延々と続く現場を宮城支店真木副支店長にご案内いただきました。

★被災の追加把握とお見舞金の贈呈(12月)

お盆前にはお見舞金の贈呈が完了していましたが、その後自治体の認定を受けた等として事務局に被災申告が相次いだため被災の追加把握を行ったところ、52件の追加申請がありました。

地方本部では既にお見舞金の原資がないため、追加把握に先立ち本部に再支援を要請し

たうえで行いました。

震災後3年が経とうとしていますが、被災地の復興はまだまだですし、被災会員の中には元の場所に戻れない方も多数います。

電友会では東北を含む全国の会員の皆様から多額の温かいお見舞金をお寄せ頂き、平成23年中に被災会員にお届けすることができ、電友会会員の絆の強さと電友会の存在価値を高めることができました。

その後も静岡県中部支部様から禅画色紙が岩手の被災会員に寄せられ、ドコモ・ビジネスネット(株)様からは被災地区のパソコン教室用にとパソコンの贈呈があるなど温かい支援をいただきました。

電友会本部をはじめ全国の会員の皆様のご厚意に改めて心から厚く御礼を申し上げます。

前事務局長 佐藤 紀也記



お見舞金の贈呈を受けた会員からたくさんのお礼状をいただきました